

# 建通新聞

自民党の足立敏之参院議員は、7月の豪雨災害で被災した山形県の最上川沿川を視察した。写真。この豪雨では、最上川沿川の観測所4カ所で過去最高の水位を観測し、本川・支川の沿川に床上浸水などの被害をもたらした。足立議員は「気候変動がもたらした豪雨に計画水位では耐えられなかった。全国的にこうした被害が増加する恐れがある」と警鐘を鳴らし、ハード・ソフト対策を急ぐ必要性を指摘し

## 山形県内の豪雨被災地

### 足立議員が視察



た。梅雨前線に伴う7月27日～29日の豪雨は、最上川の水位観測所4カ所で過去最高の水位を更新。中でも、大石田観測所（大石田町）では、これまでの最高水位を1・7メートル、計画高水位を0・7メートル上回った。最上川では、堤防からの越水が5カ所、溢水（いっすい）が1カ所で発生している。被害のあった地区には、堤防が整備されていない『無堤部』も含まれている。足立議員は「無堤部は、下流に圧力が掛かるために堤防を整備していなかった地区。これまでは被害が生じることにはなかった」と述べた上で「無堤部を解消するには、下流の整備を進める必要がある」と強調。視察に訪れた足立議員に早急な河床掘削を要望する地元首長もいたという。足立議員は「河床掘削を進めるにしても、下流も含めた一連の整備が必要。ハード・ソフト対策をバランスよく推進し、流域全体で治水能力を高める必要がある」と話している。